



## 環境

環境問題を重視しています。

### 省エネ活動の取り組み

#### 基本的な考え方

ロツテは、限りあるエネルギーの使用量削減や環境負荷の低減を目的として、全社を通じて省エネ活動に取り組んでいます。

エネルギー使用量の多い工場では、省エネ設備・高効率機器の導入や燃料転換を進め、オフィスでは照明のLED化や「クールビズ」「ウォームビズ」といった活動を推進しています。

また、2017年6月には「エネルギー管理規定」を施行しました。遵守すべき明確なルールを定めることで、より厳密な省エネの実践に役立てる考えです。

これらの活動は、従業員の省エネルギーに対する意識改善や啓発にも役立っており、今後も継続して取り組んでいきます。

#### 工場の使用エネルギー管理

菓子・アイス製造では、加熱や冷却・冷凍工程が多いことから、生産工程に多くのエネルギーを使用します。ロツテは、使用エネルギーを適切に管理するとともに、省エネ法<sup>(※)</sup>における特定事業者の目標とされている「中長期的にみて年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減」の達成に向けて、各工場でのエネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

※省エネ法：正式名称は「エネルギーの使用の合理化に関する法律」。石油危機を契機として1979年に制定された法律で、工場・事業場、輸送、建築物、機械器具の4分野の事業者のエネルギー使用について規制している。

各工場でのエネルギー使用量の推移



※2015年度：神戸工場が追加されました。浦和工場ではアイスの新工場が稼働を開始しました。

## ❖ 省エネ設備導入および省エネ改善活動

ロッテの各工場では、設備面や運用面などさまざまな角度から、省エネに向けた改善活動を実施しています。

### <設備>

1.生産工程での環境負荷低減に向けて、運転効率・能力の高い省エネ型設備の導入および更新を、順次実施しています。

### <運用>

2.省エネ委員会を開催し、取り組み成果やエネルギー使用量・CO<sub>2</sub>排出量の実績などを報告しています。

3.省エネ改善チームを設け、普段気がつかないエネルギーのムダを見つけ、一つひとつの小さな効果を積み重ねて確実な改善につなげることを目的に、「省エネパトロール」を実施しています。

「省エネパトロール」は、定期的に各工場で開催しており、施設の担当者および生産現場の担当者が工場を巡回して、エネルギー使用のムダがないかを確認しています。

- 節電の呼び掛け
- 圧縮エア漏れの防止に向けた改善
- 照明、空調、設備の電源など、生産ラインでのムダの削減



省エネパトロール

## ❖ 環境教育プロジェクト「地球教室」で出張授業を実施

環境教育プロジェクト「地球教室」の一環として、2017年11月28日、ロッテ狭山工場に東京都豊島区立高南小学校の児童を招き、工場の省エネ活動などを紹介する出張授業を行いました。本プロジェクトは、小学校高学年以上を対象として環境保全の重要性を伝えるもので、朝日新聞社が主催し、ロッテをはじめとした各協賛社、官公庁、自治体、NPO、NGO、小学校教員などが協力しています。



地球教室出張授業の様子



## 環境

環境問題を重視しています。

### 3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取り組み

#### 基本的な考え方

ロッテ商品の原材料の多くは自然の恵みであり、事業を維持・存続していく上で、地球環境を保全していくことは不可欠です。

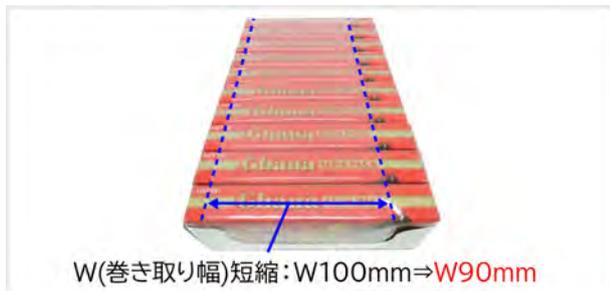
ロッテでは、循環型社会の実現に向けた取り組みとして、限られた資源の有効活用に努めるとともに、リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle）の3Rを実践し、廃棄物の低減に取り組んでいます。

#### リデュース（Reduce）：包材の削減、軽量化

容器包装の包材を削減することは、省資源はもちろんのこと、発生するごみの削減にもつながります。ロッテは、各種の品質試験を経て、「商品の品質を守る」という容器包装の最も重要な役割を確保した上で、容器包装の薄肉化や面積の縮小化などに積極的に取り組んでいます。

##### ■ シュリンクフィルム幅の短縮化 （スリムパックシリーズ）

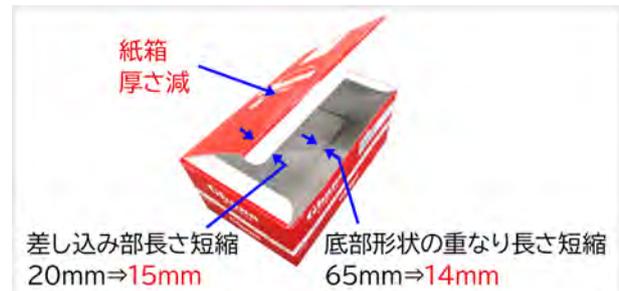
シュリンクフィルム（商品固定用のフィルム）の幅を短縮し軽量化を実現。



フィルム0.15g/個 ⬇️(10.0%削減)

##### ■ 化粧箱の坪量軽量化・形状変更 （ガーナポップジョイシリーズ）

紙箱の厚さ（重量）減、差し込み部の長さ短縮、底部形状の重なり長さ短縮の3点により軽量化を実現。



紙箱8.4g/枚 ⬇️(16.0%削減)

■ 紙箱の軽量化(フラップ短縮)  
(クランキービスケット)

紙箱横の重なり部分(サイドフラップ)を短縮することで軽量化を実現。



❖ リユース (Reuse) : フードバンクへの協力

ロッテはフードバンク活動に賛同し、NPO法人を通じて、2016年から自社製品の在庫の一部を寄贈しています。

フードバンク活動とは、食料を必要としている人や福祉施設などに食品を無償で提供する取り組みです。製品在庫を提供することで、「おいしい」「楽しい」という食の喜びを広く社会に伝える一助となるだけでなく、食の有効利用にもつながる有意義な取り組みと考え、今後もフードバンク活動への協力を継続していきます。

2017年度は、日本初のフードバンク「セカンドハーベスト・ジャパン」や「フードバンク埼玉」(埼玉県)、「フードバンクネット西埼玉」(埼玉県)、「文京区こども宅食プロジェクト」(東京都)、「順正デリシャスフードキッズクラブ」(岡山県)などの活動に協力しました。



フードバンクネット西埼玉

❖ リサイクル (Recycle) : ゼロエミッション

ゼロエミッションとは、リサイクルを徹底し、また、ある産業では廃棄物となるものを別の産業で原料として使うなどして、廃棄物を社会全体で利用しつくし、最終的に廃棄物をゼロにしようとする考え方です。ロッテの各工場では、最終的に埋め立て処分となる廃棄物をゼロにするべく取り組みを継続しています。

2017年度の工場におけるリサイクル率は95.1%となりました。前年度に比べてリサイクル率は低下しましたが、廃棄物の抑制に努めた結果、発生量は削減しました。

生産工程での廃棄物発生量とリサイクル量の推移





## 環境

環境問題を重視しています。

### 周辺環境の保護

#### 基本的な考え方

ロッテの工場の周囲には、住宅やオフィスが多いことから、周辺環境には特に配慮しています。地域に根ざし、地域と共生する工場として、周辺の大気・水質への影響を最小限に抑えるために、さまざまな取り組みを進めています。

#### 臭気対策

ガムやチョコレートなどの商品にはさまざまな香りがついていますが、この「香り」も工場外部に放出されると、「臭気」という環境負荷になってしまいます。そのため、強力な脱臭装置を設置して香りが外部に漏れないよう対策しています。

#### 水質の保全

各工場周辺の水質保全に向けては、廃水処理施設を適切に管理・運用し、法令を遵守した排水を行っています。また、これらの取り組みの効果と、水環境の現状を把握するため、法律（食品衛生法・下水道法・水質汚濁防止法など）、条例（公害防止条例など）に基づき、上下水の水質および汚泥（廃水処理で発生する産業廃棄物）について、以下の測定・確認を実施しています。2017年度末現在、全工場において、適用される法律・条令などの基準すべてを満たしています。

上水（市水・井水）：仕込み水用途の上水の水質測定分析

上水（工業用水・井水）：仕込み水を除く用途の上水の水質測定分析

下水総合排水：廃水処理後の水質の適正管理

脱水汚泥：廃水処理場の汚泥に有害物質が含まれていないことを確認

冷却塔冷却水：冷却水のレジオネラ属菌類の検査をして水質管理が適正であることを確認（自主分析）

さらに各工場では、従業員の意識啓発や施設点検・メンテナンス、敷地内での水質モニタリングなどにも取り組んでいます。



## 環境

環境問題を重視しています。

### 物流の環境配慮

#### 基本的な考え方

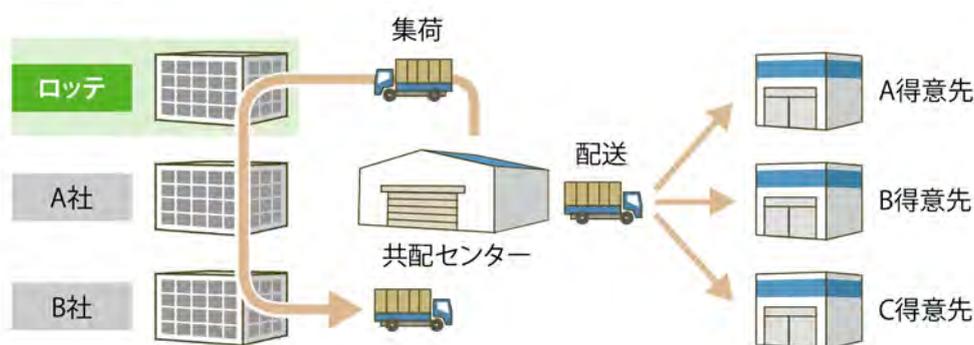
日本全国のお客様に商品をお届けしているロッテにとって、物流に伴う環境負荷の低減も、大切な取り組み課題の一つです。

ロッテでは、低炭素社会の実現に向けた取り組みのひとつとして、物流に伴う環境負荷の低減に取り組んでいます。商品の積載方法の効率化に努めるとともに、同業他社との共同配送や、モーダルシフトを推進しています。

#### 共同配送の取り組み

共同配送とは、同業他社や運送業者、倉庫業者などと協力し、商品の配送を共同で行うことをいいます。配送に関わるトラックの必要台数を減らすことで、二酸化炭素排出量の削減につなげています。

共同配送のイメージ



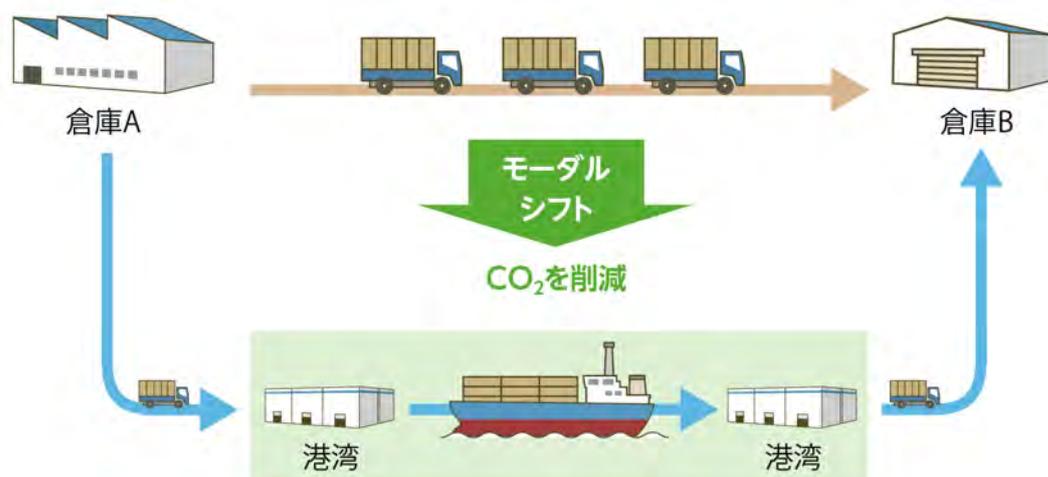
※図は共同配送の一例です。

## モーダルシフトの推進

モーダルシフトとは、トラックによる輸送を、より環境負荷が低く大量輸送が可能な海上輸送または鉄道輸送に転換することをいいます。ロッテではモーダルシフトの推進に以前から取り組んでおり、現在は、九州から大阪、および東京から北海道への輸送において海運を活用しています。これにより、輸送時の二酸化炭素排出量の削減に努めています。

	2016年度	2017年度
CO <sub>2</sub> 排出量の削減（トン／年）	約173	約193

こうした取り組みが認められ、2002年度に「エコシップマーク優良事業者」（※）に認定されています。また、船舶以外にも、関東から九州、北海道などの長距離輸送の一部で鉄道を活用しています。



九州-大阪間の船舶輸送  
フェリーに乗り込むロッテ商品を載せたトラック

※エコシップマーク事業者：エコシップ・モーダルシフト事業実行委員会に認定された、環境負荷の少ない海上輸送を一定以上の割合で利用した荷主企業や物流企業のこと。



エコシップマーク